

取り組み内容

効率的な町営バスの運行を目指し、車両の小型化やデマンドバス（予約制の乗り合いバス）方式を含めた運行システムの見直しを行います。指定管理者制度の検証と、新規施設の洗い出しを進めます。

結果

- 22年11月から、小田地区の大平線と南山線で民間タクシー事業者によるデマンドバスの試験運行を行い、23年1月から運行しています。
- 22年4月1日から、オリエンタルホテル高知株を「内子町総合交流促進施設」と「内子町共同福祉施設」の指定管理者に、さくらの会を「内子町農村体験宿泊施設（石畳の宿）」の指定管理者に、それぞれ選定しました。



内子町農村体験宿泊施設（石畳の宿）

取り組み内容

自治会運営費などの適正化を図るとともに、小規模高齢化集落（限界集落）の活性化に取り組みます。

結果

- 市街地と山間部の均衡を図るため、自治会運営費補助金と自治会長・事務局長報酬の交付基準の見直しを協議しました。
- 22年10月～23年3月にかけて山間部の空き家調査を行い、302件の空き家を確認しました。23年度は市街地の空き家など調査する予定です。
- 「小規模高齢化集落の地域再生」をテーマに、自治会活動研究大会を開きました。
- 都市部からの修学旅行や体験学習、交流学習の受け入れを推進するため、先進地の視察研修を行いました。
- 都市との交流などを目的に旧長田小学校を活用した宿泊施設の整備を検討し、先進地視察を行いました。

行政改革推進委員会の意見

▶デマンドバスの導入は、今後、他の地域ではどのように考えているのか。

▶町の回答

22年度事業で町内全域にアンケート調査を行いました。この結果を基に、運行路線など全体の計画を立て、23年度事業で行いたいと考えています。

▶デマンドバスの利用方法などを高齢者が理解していないように思われる。周知が十分ではないか。

▶町の回答

デマンドバスの運行に当たっては、該当する地域で説明会を開き、高齢者には個別に聞き取り調査を行い対応しています。



行政改革推進委員会の意見

▶自治会運営費補助金の交付基準の見直しに際しては、市街地と山間部の均衡がとれるよう、自治会だけでなく行政区の負担などを含めて十分検討する必要がある。

▶町の回答

24年度の改定を目指し継続して協議します。

内子町の行政改革

第2期計画の取り組み状況をお知らせします

内子町は平成17年から、安定した行財政運営を進めるため行政改革に取り組んできました。22年6月からは、「内子町行政改革第2期計画」に基づいてさらに改革を進めています。22年度の取り組み状況について3月23日、内子町行政改革推進委員会（門田秀夫^{ひでむ}会長）に報告し、承認を受けましたので、お知らせします。

取り組み内容

水道事業などの地方公営企業や第3セクター、地方公社の経営健全化を含む全ての事務事業を検証します。また内子町公共事業分担金条例の見直しや、利用していない町有地や教員住宅など町有財産の処分（売却）を進めます。

結果

- 土地開発公社の経営健全化に向けて長期保有土地の早期処分を図るため、「うちこんかい定住促進事業補助金」要綱を拡充しました。23年度事業から適用されます。
- 近年の経済状況や社会情勢を考え、町が行う公共事業に関する分担金条例を改正し、受益者の負担率を軽減しました。23年度事業から適用されます。

行政改革推進委員会の意見

▶町営住宅（小田地区）の空き部屋の活用を早く考えること。個人住宅の空き家も増えており、町が修繕費を補助するなどして活用できないか検討してほしい。

▶町の回答

内子町全体の公営住宅施策に関して、23年度予算でマスタープランの作成に取り組みます。また22年度から町内の空き家調査を行っており、活用可能な空き家で修繕が必要な場合は、国の補助事業などでの対応を考えています。

取り組み内容

世代間のバランスが取れた新たな定員管理計画を検討します。また能力・成果主義の徹底を目指し、人事評価制度の導入を検討します。

結果

- 27年度末の大量退職予定者数の影響を考え、中長期での定員適正化計画の作成に取り組んでいます。
- 22～23年度の2年間にわたって人事評価制度を試行しています。今後、導入に向けて検証を行っていきます。

行政改革推進委員会の意見

▶人事評価を実施することで、職員がやる気を出し成長しているかを確認すべき。精神衛生面でマイナスとなっている場合は、いち早く上司が発見して指導するなどの対応を取る。

▶町の回答

試行段階であり、さまざまな意見を聞きながら実施を検討します。また町では、衛生委員会を設置し、職場の環境管理や改善策などについて定期的に話し合っています。